

日本勤労者山岳連盟・静岡県勤労者山岳連盟

裾野麗峰山の会 (since 1994)

第24期・3、4巻 2018年6・7月号 NO. 205

仲間と仲間を結ぶ機関誌



や・ほ・う

Susono Reiho Alpine Club



夏は花三昧

山行NO. 1802-3
2018. 07. 02
芦別岳

7月度例会報告

2018. 07. 08 生協2F 15:30

1. 山行報告

個人	07月6～8日	浅草岳（峰田）
NO. 1802-5	07月05日（木）	北上・五葉山
NO. 1802-4	07月04日（水）	下北・縫道石山
NO. 1802-3	07月03日（火）	大沼・駒ヶ岳
NO. 1802-3	07月02日（月）	芦別岳
NO. 1802-2	07月01日（日）	幌尻岳
NO. 1802-1	06月30日（土）	北海道・アポイ岳
NO. 1801 ス)	06月22日（金）	越前岳（勢子辻コ一
まつりハイキング	06月21日（木）	西沢渓谷
NO. 1800	06月17日（日）	八ヶ岳・馬蹄型縦走
NO. 1799-1・2	06月08日（土）～9日（日）	谷川岳・西黒尾根 稲包山
NO. 1796	06月02日（土）	富士山・宝永山2352m峰
まつり登山	05月31日（木）～4日（月）	九州=祖母・傾・大崩山
まつりハイク	05月29日（火）	奥秩父・小川山
NO. 1795	05月26日（土）	山岳スキー=乗鞍岳
熊野古道	05月14日（月）～17日（木）	大雲取・小雲取越え
伊豆八十八札所巡礼	05月09日（水）	箱根越え
個人山行	05月04日（金）	金時山（水口、ほか）
NO. 1794-3	05月01日（火）	山岳スキー=尾瀬・至仏山

2. 今後予定（変更もあります）

07月

07月08日（日）

例会

07月14日（土）

定例ハイク=例会では参加者

07月15日（日）

県連=やま筋ゴーゴー体操講習会

沼津特別支援学校体育館=13:00～

R1バイパス=今沢交差点次、大塚交差点右折
車代・参加費は会で負担します。

結果=11団体（1団体他）71名で盛況
でした



無理せず頑張りましょう



赤い服は、全国連盟女性委員会
委員長=久保典子さん

07月18日（水）

まつたり山行=三ッ峠

07月21日（土）

ハイクの日

07月28日（土）

07月31日（火）～8月2日（木）

第一夏山合宿・・・白馬岳～朝日岳

参加者希望者=後藤、合谷、加藤、

08月

09月

09月15日（土）～16日（日） 全国ハイキング集会=伊豆長岡・いずみ荘

会うごき・・・*水口さん、再就職で今後の山行の参加が厳しくなりました

裾野麗峰山の会・山行報告書

文・OW 写真 TG

山行NO NO. 1798-1

日 時 2018. 06. 08 (金) 晴・上部は風あり

山 域 谷川岳 (1963m) 西黒尾根

コース 長泉発4:40-圏央道=関越道=水上IC-谷川岳ベースプラザ発8:20-最初の鎖場
10:13-ラクダのコルーザンゲ岩-谷川岳12:39-肩の小屋12:45～13:45-天神平15:30-水上・民宿「みちのく」16:26(泊)

標高差 上り 谷川岳ベースプラザ約750m～谷川岳1963m=約1213m
下り //

参加者 GT, KH, MM, MMK, GM, HS, OW=7名

花いっぱいの谷川岳

朝8：00、谷川岳ベースプラザ駐車場に到着。平日のためか車は少なくガラ空きだった。

8：20、登山開始。K HさんとH Sさんは別ルートをとり巖剛新道へ向かった。

分岐から西黒尾根へと入っていく。初めは樹林帯の中を歩く。湿度が高く、すぐに汗をかく。テンポの良いペースだ。G Tさん、MMさんが、花の名前を沢山教えてくれた。ミソガワソウ、タニウツギ、エンレイソウ、ツバメオモト、ツクバネソウ、ユキザサ、オオカメノキなどがあった。

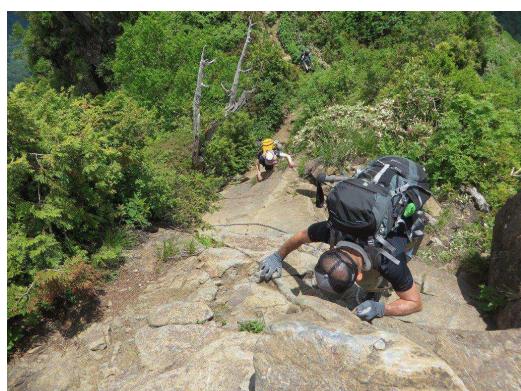
10：05、標高1400mあたりから樹林帯を抜けた。雲は沸いているが良い天気だ。

G Tさんに「あの山は白毛門、朝日岳だよ。」と教えてもらった。どこも行ったことのない山だ。実は白毛門を「しろげもん」と勘違いしていたのは内緒の話だ。

ちらほらと高山植物も見えはじめた。黄色い花があったので私は「ミヤマキンポウゲだ！」と言ったが、G Tさんは首を傾げる。近くを歩いていた若いパーティーは「ミヤマキンバイだ！」と喜んでいた。結局正解は「エチゴキジムシロ」だった。G Tさんが帰ったあとメールで教えてくれた。やっぱり花は難しい。



10：15、いよいよ最初の岩場が現れる。多くの人が登っているのか岩が磨かれツルツルしている。慎重に三点支持で登る。



10：30、ラクダの背に到着。最後尾を歩いていたMMさんが少し遅れていた。「肩から血が回らない。」と言っていた。小休止を挟み、再度出発。
正面には谷川岳の山頂、オキの耳とトマの耳が見えた。



その後も鎖場が続く。楽しみながら登った。ハクサンコザクラ、ホソヒバナウスユキソウ、ハクサンイチゲ、コイワカガミ、ツガザクラにも出会った。どれも可愛らしい花だ。



白いハクサンコザクラ

11:05、標高1600m付近まで到着。MMさんが極端に遅れていた。GTさんが大声でMMさんに呼びかける。どうやら体調が悪いようだ。GTさんの指示で、私、GMさん、MMKさんは先に出発することにした。



展望の良い西黒尾根を歩く

高山植物が現れてから、虫に囲まれるようになった。休憩すると、すぐに私の周りをブンブン飛んでくる。30匹程に纏わりつかれ、鬱陶しく感じる。顔にチクリと感じて触ると必ず虫をつまむことができた。

手で払いながら歩いていると、ザンゲ岩に到着、11:50。西黒尾根の終わりも見えて来た。稜線まであと少しだ。後ろを振り返ると、巖剛組のKH、HSさんがGTさんたちと合流していた。

12:00、稜線の末端まで到着。登山道に雪渓が張り付いている。ステップはしっかりついていた。ツボ足で慎重に登る。



GTさんチーム

G T さんたちが、気づけばすぐ後ろまで来ていた。雪渓を登り終えたところで、待機して全員合流。



12:30、トマの耳（1963m）に到着。私は初めての谷川岳だったので、もう一つのピークにも寄り道してきた。道中、チングルマとハクサンイチゲの見事な群落があった。



トマの耳山頂



チングルマとハクサンイチゲ

12:40、オキの耳（1977m）に到着。こちらの方が数m高いことを知った。KHさんが、「鳥居があるよ。」と教えてくれたので、続いて鳥居を目指してさらに進む。山頂から5分ほど進んだ場所に確かにあった。「富士浅間神社奥の院」と書いてある。



祠があった

奥の院の後ろには、一ノ倉岳、一ノ倉沢が広がっている。一ノ倉は岩登りで有名だが、どこにルートがあるのかまるで分からなかった。いつかはあの場所にも行ってみたい。しばらく景色を堪能して、来た道を戻る。

13:05、肩の小屋で昼食をとっている他メンバーと合流。

KHさんから、煮卵と焼豚、骨付き肉をいただいた。とっても美味しい！ジャガイモの煮ころがしもあったそうだが、私が来る前に全て食べられてしまったとの事。残念！

お昼の時間に、色々な話をして楽しんだ。沢登りの話など刺激的な話を沢山聞くことが出来た。

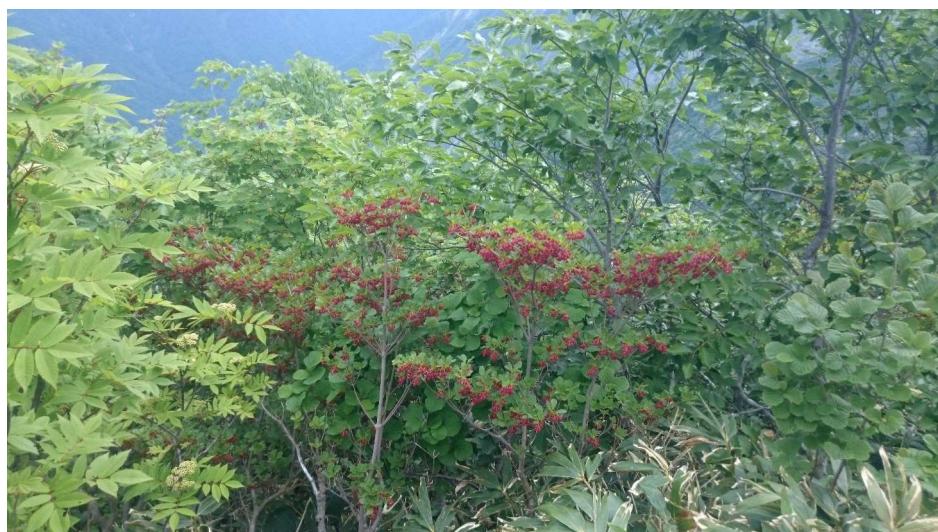


全員で記念撮

13:45 天神尾根より下山開始。歩きやすくメジャーなルートとの事だが、岩がガラガラしていて歩きづらい。韓国のツアー客と何人か登ってきた。「ヒンネラ！」頑張れと言ってみる。「カムサハムニダ」と返してくれて嬉しくなった。



途中、たわわに実る美味しそうな実を見つけた。「あの実は食べられますか？」と聞くと、「あれはサラサドウダンだよ。」と言われた。よく見てみると、実だと思っていたのは全て花だった。美味しそうに実っているものである。



たわわに咲いているサラサドウダン

KHさんから、コシアブラの見分け方を教えてもらった。天神尾根には多くのコシアブラが自生しており、コシアブラを見つけながら下山した。15:25、ロープウェイ乗り場である天神平へ到着。いよいよ谷川岳とはお別れだ。最後に、谷川岳バックにバニーポーズで記念撮影。ロープウェイに乗り込む。その後、16:26 民宿「みちのく」にチェックイン。豪勢な夕食をいただき21:00には就寝した。

感想

今回、ありがたい事に谷川岳山行に同行させていただくことになった。

裾野麗峰のGTさん、KHさんとは、2017年暮の、戸台でお会いしている。私は、日本山岳会の個人山行で、戸台から仙丈ヶ岳へ行く途中、GTさん達は戸台から甲斐駒を超えて黒戸尾根へ行く予定の所、悪天の為引き返してきたそうで、そこでバッタリ遭遇した。

その頃から、裾野麗峰の事が気になっていた。そんな折、元々の山仲間であったMMKさんが、麗峰に所属した事を知った。私が気になっている事を知ると、それならば、と紹介してくださり、今回の山行に至った。念願が叶い嬉しい限りである。

改めて、麗峰の皆様は「すごい」と感じた。体力もある。そして山の事をよく知っていた。私が知りたい事を全て教えてくれたし、知らない事を沢山教えてくれた。

話せば話すほど、山を敬愛している気持ちが伝わってきた。

素敵な皆様にお会いすることが出来てとても幸せです。平日休む事がなかなか難しいですが、また機会があればぜひご一緒させてください。ありがとうございました。



素敵な皆様（「民宿みちのく」にて）

裾野麗峰山の会・山行報告書

文・写真 TG

山行NO NO. 1798-2

日 時 2018. 06. 09 (土) 晴・上部は風あり

山 域 上越国境・稻包山（いなつつみやま・1598m）

コース 水上・民宿「みちのく」6:45—猿ヶ京温泉—法師温泉手前—登山口発7:50—第一鉄塔8:31—第二鉄塔9:02—トラバース道—国境稜線—稻包山9:44~55—登山口11:04—法師温泉入浴—発12:45—長泉16:45

標高差 上り 登山口標高約882m~稻包山=1598m=約716m

下り "

参加者 GT, KH, MM, MMK, GM, HS, OW=7名

サックと上る上越国境の秀峰

初めて泊まる水上の民宿「みちのく」は、安価だが、なかなか良い宿だった。

夕食は御馳走が満載で食べきれなかった。

宿泊は我々だけだったので、女将に我儘を言って、一人部屋にして貰った。

その場合、本来プラス1000ーとのこと。お酒も大いに飲んで、ちょっと酩酊だった。

朝食は6時に済ませ、「おまけ山行」の稻包山に向かった。

心配された天気は、昨夕立ちがあったものの、上天気だった。



民宿「みちのく」

峠を越え、猿ヶ京温泉から法師温泉に向かう。

法師温泉手前が稻包山分岐だが、道標がなく法師温泉まで行ってしまった。

戻って登山口に向かう。林道のブッシュが手入れなく車にバシバシ当たる。

駐車場直前も道標がなく、再び戻り駐車場着。登山口に稻包山の小さな看板があった。

周りは杉林で手入れがされ登山道が伸びていた。



実はこの道、エアリアマップに掲載されていない。

何故なら、上部にある送電線鉄塔の巡視路なのだ。ま、この手の巡視路は全国各地にあり、有難く利用させて貰っている。

沢音を聞きながら、杉林の中の物凄い急登を行く。昨日の西黒尾根の疲れが残り、脹脛は悲鳴を上げる。それでも我々はまだ良かった。何と今回参加した女子三名は、一昨日、6日間の九州遠征から帰ったばかりだった。たった、1日休んだだけで・・・オドロキ！！



第一鉄塔

展望が開けると、第一の鉄塔だった。

小休憩して飲み物を補給。上部はイイ風が吹き気持ち良い。再び左手の尾根を、ジグザクに上って行く。

兎に角、一本上りの急登で効率は良い。上部が開けたら、物凄い巨大な送電線鉄塔が現れた。

こんな大きなものは、あまり見たことがない。



巨大鉄塔

この送電線は、津南の信濃川発電所で発電し首都圏に送っている。

JR東日本が所有している。従って仮に原発がアウトになっても電車は止まらない。

昨年、蓬峠で見た送電線と同じである。それにしても巨大である。

送電線越しに稲包山の尖ったピークが見えた。

道は鉄塔から南に大きくトラバースする。

登山道ならこんな道作りはないだろうが、巡回路ならのモノだろう。

ダイレクトに尾根を行きたかったが、熊笹が酷くとても無理だった。(地図赤点線)

20分ほどのトラバースで、上越国境稜線に出た。

稜線は風通しが良い、明るく気持ちが良い尾根だった。

長い間登山を続けているが、この辺りの山は、殆ど上っていない。

今回は新しい経験・発見が出来て良かった。

稲包山は、まだ先で梢越しにピークが見えた。

最後の踏ん張りで急坂を上る。空が広がり頂上に着いた。

皆もゾロゾロ登頂。展望は素晴らしいが、雲が多く昨日の谷川が望めないのが残念だった。

三角点に座ってビアを一本頂いた。(失礼) 風が冷たかった。



稻包山頂上

下山する。

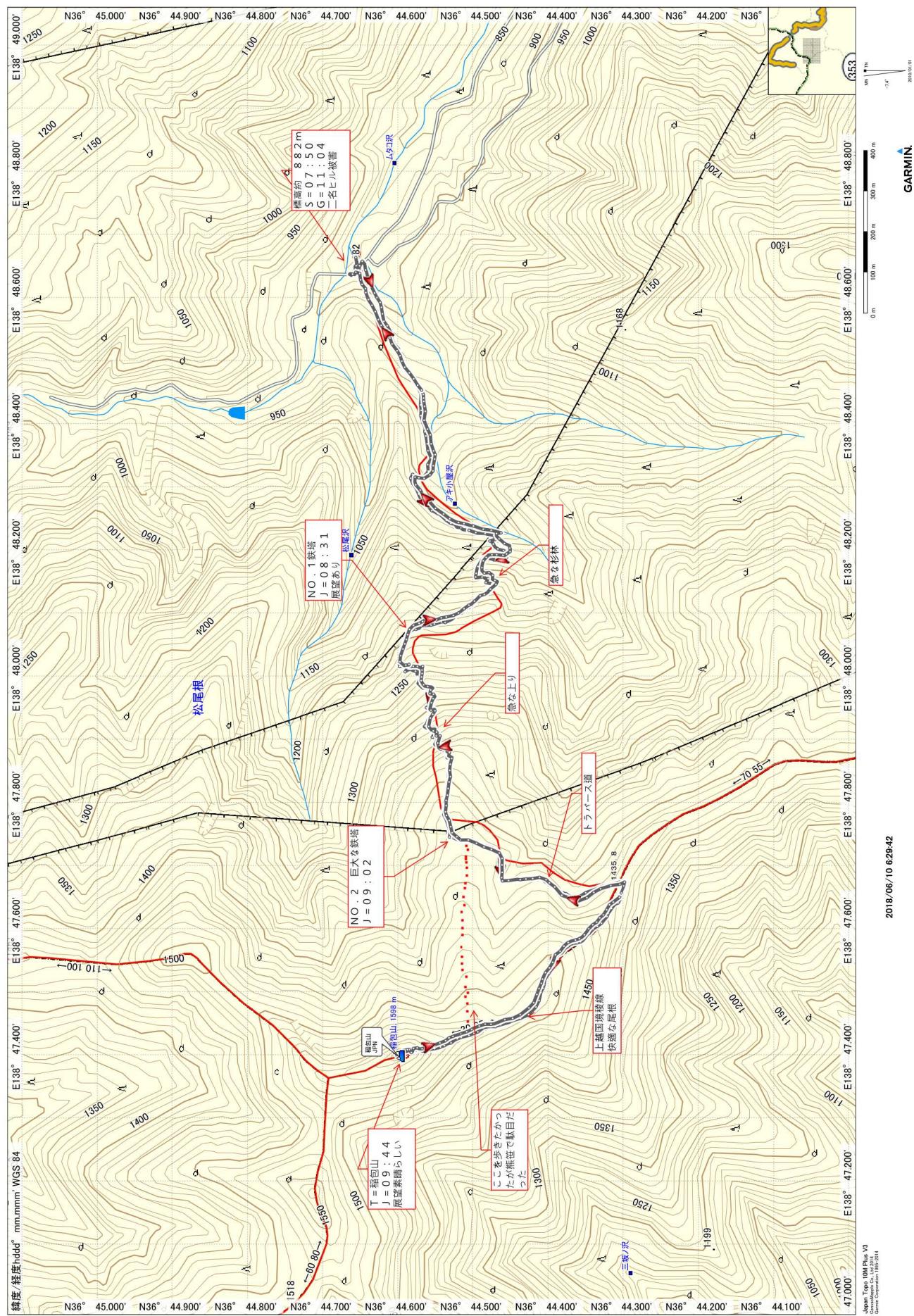
登山時に気が付かなかった、残りシャクナゲが咲いていた。

1時間ほどで駐車場着。ところが、〇に小さなヒルが付いていた。それを聞いた、Ｋが脚を捲ったら大きなのがいて大騒ぎ。幸い、吸血には至らなかったようだ。

すぐ近くの法師温泉で汗を流した。混浴温泉に若い美女が2名入っていた。思わず魅入ってしまったオジサンでした。トホホ・・・・(笑)

追記

1. 民宿「みちのく」は、7700ーでサービス・食事・寝具などサイコーだった。
2. 法師温泉日帰り入浴は1000ー。休憩場で食事も出来る。
3. 水上の朝が早く「生ドラ」を購入できなかった。月夜野IC手前で1軒営業していて、購入出来た。
4. 月夜野IC近くはガソリンスタンドが少なく要注意。
4. 帰路の関越道は全く渋滞がなく快適だった。
5. 民宿で飲んだ日本酒は、地酒の「水芭蕉」だった。
6. 花は殆ど無かった。
7. 二日間、皆さん良く歩きました。次回も楽しみましょう。



裾野麗峰山の会・山行報告書

文・写真 TG

山行 N <small>O</small>	N <small>O</small> . 1799
日 時	2018. 06. 17 (日) 無風快晴
山 域	八ヶ岳・馬蹄型縦走=赤岳 (2899m)
コース	赤岳山荘 4:50—赤岳鉱泉 6:24—硫黄岳 7:46—硫黄山荘—横岳 9:01—天望荘 10:06—赤岳 10:38—文三郎分岐—中岳—阿弥陀岳 12:04~25—御小屋尾根 —南沢 14:00—赤岳山荘 14:30
標高差	上り 赤岳山荘約 1690m~硫黄岳 2760m=約 1070m 硫黄山荘約 2650m~横岳 2829m=約 179m 地蔵尾根分岐手前約 2700m~赤岳 2899m=約 199 m 中岳コル約 2650m~中岳約 2700m=約 50m 中岳沢分岐約 2650m~阿弥陀岳 2805m=約 155m 累計標高差= 1653m
参加者	下り 阿弥陀岳 2805m~赤岳山荘約 1690m=約 1115m GT, KH=2名

念願のハツ・馬蹄形縦走

梅雨の唯一の晴れ間に念願だったハツ・馬蹄形縦走（硫黄～横岳～赤岳～阿弥陀）を行った。

馬蹄形縦走と言えば、谷川岳が有名だが、ハツでも出来ると思った。

赤岳山荘から出発。天気は良かったが、涼しいを越して寒かった。その証拠に、赤岳鉱泉に霜が降り、氷が張っていた。季節外れの寒さだった。

北沢を上る。簇葉草（おさばぐさ）、燕万年青（つばめおもと）、黄花の駒爪、八ヶ岳黄堇などが見られた。簡単に鉱泉着。休憩なしで硫黄に向かう。途中で男の子と親を抜かす。4時30分に山荘を出たという。子供は元気だった。

大きな荷物の若い集団がいた。メッツェン（若い女子）が多かった。高校生かと思ったら、大学一年とのこと。なかなか元気がよろしい。



素晴らしい景観

赤岩の頭で一気に展望が広がる。素晴らしい景観。何回来てもイイ。早くも硫黄から下山する方が多かった。聞けば鉱泉から往復だった。好天だから往復では勿体ない。

硫黄には3時間掛からなかった。良いタイムだった。学生さんらしい集団登山で溢れかえっていた。100名以上は居るだろう。



硫黄岳

硫黄を過ぎるとパタッと登山者が居なくなった。縦走者は少ない。

朝の出立で賑やかな硫黄岳山荘着。

相方がトイレの間に、ガイド登山＝20名×2パーティーが出掛けてしまった。

周辺の花は良かった。御山の豌豆（おやまのえんどう）が花盛り。

駒草は、今にも咲きそうだった。長之助草が多かった。

横岳の上りで、ガイド登山者20名+20名+一般10名を抜かした。

ガイド登山は、兎に角、遅く途中で早くも休憩。ガイドも商売とはいえ大変だ。

横岳の西側には、九十九草が沢山咲いていた。今年も期待通りだった。

奇妙な名前だが、ネットでは発見者の父の名を冠したとあった。

赤岳に向かう。ウルップ草が出て来た。まだ、小さいが独特の色が素晴らしい。随分、多かった。



御山の豌豆



ウルップ草



横岳から地蔵尾根まで鎖場が多く、油断出来ない。ここの冬は厳しい。
大昔、冬時間切れで、この稜線でビバークしたことがある。結構、厳しかった。
前後して歩いていた方が、杣添尾根をスキーで上ったといっていた。確かに以前、スキーの跡を見たことがある。しかし、スキーに全くならないこの尾根に、スキーで上るとは何と醉狂なんだろう。醉狂と言えば、逆コースで、自転車を担いだ若者がいた。



九十九草



自転車若者

聞けば、自転車の重量は 8 kg。何と権現の観音平から来たという。自転車に乗れる山岳なら少しは分かるが、全く乗れそうもないハッである。親愛を込めて「大バカ野郎」と励ました。

天望荘着。登山者でごった返している。好天が続ければ、日曜登山はしないが、今回は仕方がない。また、ガイド登山者が 3 パーティーいた。例によって遅い。頂上山荘まで鎖場が続くがドンドン抜かす。付き合っていたらキリがない。気の毒なのは下りの方だ。道を譲っていたら、いつまで待っても下れない。結局、横岳から 100 名以上抜かしたことになる。

頂上着。下山も時間が掛かりそうなので、休まず行く。やっぱり下山も詰まっている。見れば、若い女子が全く遅い。そもそも、岩訓練などしていない者だから無理。

途中で抜かさせて貰った。文三郎分岐に立った。殆どの登山者は、ここから行者小屋に下る。阿弥陀に向かうのは、ほんの一握りの登山者。何処かの方が「偉いね~」と励ましてくれた。

ここは、今年 1 月も来ていた。中岳を越えて、阿弥陀の上りに掛かる。疲れも相まって厳しい上りだった。

途中で下って来る方に声を掛けられた。労山の佐久山の会方で、相方の N P (会ネームプレート) を見て声を掛けてくれた。しばし歓談。12 時阿弥陀に立った。山荘から 7 時間だった。20 分休憩して御小屋尾根を下る。ここを下るのも 2 ~ 3 名だった。



ガラガラの御小屋尾根を下る。疲れか足がもつれる。下から全部で3名上って来た。ここをやるのは偉い。いずれも単独だった。



大きな岩に「四区」と書かれた所から南沢に下る。1月は最低コルから下ったが、こちらは余り良くなかった。途中で立派なアイゼン一式を拾った。やはり入る人が居るのだろうか。



苦労したが何とか南沢に下り切った。一般道の大巻の上で、大きな堰堤がある場所だった。
一般登山道を下り、無事、赤岳山荘に着き馬蹄形縦走を完成させた。真に厳しい山だった。完全燃焼。
記憶に残る山が、またひとつ増えた。

(了)



湯元蝮草

据野麗峰山の会・山行報告書

文・写真 TG

山行 N0 NO. 1802-1
日 時 2018. 06. 30 (土) 濃霧
山 域 北海道・アポイ岳 (810m)
コース アポイ岳ビジターセンター6:23-避難小屋7:29一分岐-アポイ岳8:37-幌満(ほろまん)お花畠9:01一分岐-避難小屋10:12-ビジターセンター11:08-とよぬか荘16:09(泊)
標高差 上り ビジターセンター約70m~アポイ岳810m=約740m
下り "

ヒダカソウは遅かった

2018・北海道遠征で最初の山。

ビジターセンター駐車場から出発。雨は降っていないが、山は深い霧。

津軽海峡半ばまで晴れていたが、北海道は霧雨だった。

苫小牧からここまで陸路147kmは長い。途中、日高のサラブレッド銀座があった。牧場では、馬の親子が草を食んでいた。



馬の親子

道内の若い衆、4名がやって来た。トイレはウォシュレット完備。

感じのいい自然林を上る。避難小屋まで、概ねトラバース。

小屋は立派で宿泊も出来る。ただ、トイレはない。あるのは携帯トイレが使えるブースだけ。

この件は、下山時、地元の関係者と会った時、話をした。

1. 携帯トイレは、ビジターで販売だが、早朝は閉まっているので購入出来ない。
2. そもそも、ブースのPRが全くないので、購入する方は少ない。
3. 近くのコンビニ・商店で携帯を販売した方が良い。など。

関係者は善処します、とのこと。



避難小屋

避難小屋から急登が始まる。

岩混じりに尾根をグングン上る。花は春花は既に終わり。現在、端境期で夏花に移行中。一番目立ったのはキンロバイだった。8：37頂上着。

小さな祠があった。相変わらずの深い霧で展望はなし。



キンロバイ

下山は、お花畠があるという「幌満」に下る。20分程で着いた。

5月上旬、「ヒダカソウ」が見られるが、現在は少ないらしい。

原因は盗掘とハイマツの侵入と看板にあった。

珍しい花は、

エゾルリムラサキだった。本土のミヤマムラサキに似ていた。

ほか、アポイ固有種の、エゾコウゾリナなど。ここからトラバースで分岐に戻る。オジサンが2・3名やって来た。皆さん、花の情報を聞いてくる。



アポイ環境整備関係者の方

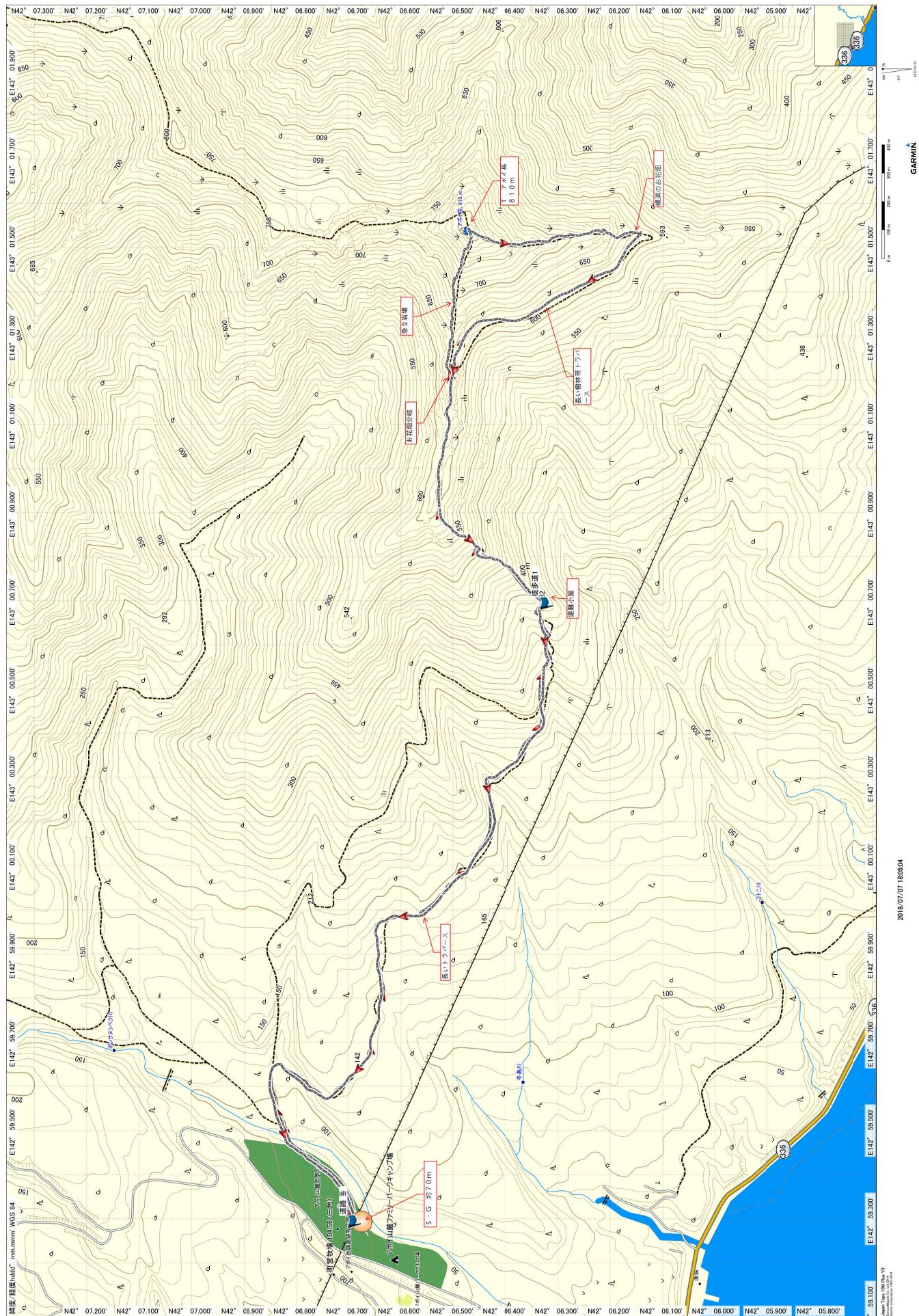
小屋に戻り小食。ラーメンとビアを頂いた。下から沢山上って来る。
中には随分軽装で、サンダルみたいな方もいた。観光者だろう。
11:08 駐車場着。次の目的地、幌尻に向かう。



エゾルリムラサキ



頂上の祠



山行 N0 NO. 1802-2 文・写真 TG
日 時 2018. 07. 01 (日) 大雨
山 域 北海道・幌尻岳 (2052m) 額平川途中まで
コース 第二ゲートー林道終点ー額平川途中・引き返点 6:15ー林道ーとよぬか荘 (素泊)
標高差 上り 林道終点約750m~額平川途中約900=約150m
下り "

幌尻岳、2年連続の敗退

昨夜は、「とよぬか荘」泊。廃校跡。一泊二食=4200ー、素泊り=3000ー、大きな風呂あり、寝床は簡易ベット、夕食は二種類。野菜炒めとマトン焼肉。空いていれば、当日でもOK。全体的に親切。ただ、若い女性の係りは、天気予報を把握していないなく、やや情報サービスに欠けていた。

朝起きたら雨だった。今夏、幌尻岳はこの日が山開き。小屋も同じ。登山者は我々と単独の兵庫のオジサン(72歳)、ツアーチーム10名のみ。バスは3時発。前日、雨の場合、バスが出ない時があると、とよぬか荘管理人に「脅かされたが」良かった。バス添乗員は、饒舌な方で世間話をいろいろしてくれた。林道で昨年は熊を何回か見た。戦時中は、マンガンの採掘で大きな集落があり、学校もあったと教えてくれた。林道を1時間走り、第二ゲート着。ここから登山開始になる。

雨は相変わらず続いている。約3H歩き林道終点着。本来はもう少し行けるが、今春、終点付近の橋が流されここから再出発になる。すぐ、最初から渡渉。これまでの雨と今日の大雪でかなりの増水。結局、小屋に向かったのは、小屋管理人と我々、兵庫のオジサンのみ。ツアーチームは、ここで退却。

1H程、右岸を進むと、本格的な渡渉となった。川は更に増水し股下まで浸かる。小屋番も「水が多い」といった。何回か渡渉をして、アルミの橋を渡った。この上が厳しかった。ちょっとしたヘツリを終えた上が最悪だった。へそ上まで水に浸かるとモーレツに冷えた。水が冷たいのだ。

小屋番は、太く長い棒を巧みに使い渡り切った。この流れだとストックはオモチャで用を足さない。余りの増水で危険を感じ、ザイルを出し、対岸の小屋番に投げた。ザイルで兵庫の方をやっと渡した。オジサンは身長がないので、胸下まで浸かり、途中、危ないバランスだった。ザイルがなかったら、流されてしまうだろう。

小屋番は、「帰るなら、ここしかない」と、冷たく言った。(笑い) 小屋まで約1H、まだ数回渡渉があると言う。昨年はここで3名流され亡くなっている。我々だけなら行けないこともなかったが、兵庫の方を見捨てることは出来ない。また、無理は出来ない。ここで断念し小屋番と分かれ下山。下りは、いくらか楽だった。

途中、樹木に付けられた、熊の爪跡を見たり、無事、林道着。ザンザン降りの中、長い歩きで第二ゲート着。ここには10畳ほどのプレハブがある。ドアを開けたら、ツアーチームの方がバスを待っていた。しばし交流。バスで再び「とよぬか荘」着。ストーブをガンガン炊いて貰い、装備を乾燥させた。

これで2年連続、幌尻は敗退。ま、長い山人生では、こんなこともある。花に拘らなければ、昨年同様、天気が安定する8月がお勧めですね。



厳しい渡渉（兵庫の方）



流された林道終点の最初の渡渉（後方に撤退のツアーの方）



途中のアルミ橋

山行 N〇 N.O. 1802-3 文・写真 TG
 日 時 2018. 07. 02 (月) 曇りのち雨
 山 域 北海道・芦別岳 (1726m)
 コース 山部貯水池登山口 7:10 - 鶯谷 (観太郎コース分岐) 9:10 - 半面山 9:45 - 池塘 -
 雲峰山 - 雪渓 - 芦別岳 11:04 - 雲峰山 (昼食) - 半面山 - 登山口 14:07
 標高差 上り 登山口約325m ~ 芦別岳 1726m = 約1401m
 下り "

雪渓を越えて鋭峰に上る

北海道には、「深田百名山」が9峰ある。しかし、昨年上った、
 夕張岳 (1668m) も芦別岳も百名山ではない。
 私は53年・1800回登山をしているが、深田百名山はそれほど興味はないし、
 全て上っていない。
 だが、夕張岳も芦別岳もイイ山だ。深田は選定に辺り、大いに悩んだだろうが、
 そもそも、北海道で9峰は無理がある。百名山コレクターが、
 仮にこの両峰を上っていなかったら、大きな忘れ物をした、ということだろう。

天気は曇りだった。貯水池駐車場から登山。宮城N〇の単独の67歳の方と交流。労山の盛岡山友会の方だった。単独で北海道を長期で上っているようだ。
 動物除けの鉄製の扉を開けて上り出す。湿気が酷く、モーレツに暑く、汗が滴り落ちる。
 鶯谷まで2H50のコースだったが、2Hで上った。ここで大休止。



登山口の扉

ここから半面山は、綺麗な白樺林が続いた。
 右手から涼しい風が渡って来た。目を凝らすと、ガスの合間に雪渓が見えた。
 渡る風が涼しいのは、このためだった。
 反面山と雲峰山のコルには池塘が広がっていた。
 水芭蕉が咲いていた。
 仰げば、芦別山が雲間に確認出来た。幾つもの雪渓が認められた。
 そういえば昨日、とよぬか荘で、地元のガイドと思しき方が、「雪渓がある」と
 いっていた。万が一があるので、今回、簡易アイゼンは用意した。
 池塘を越えると、いよいよ花が出て来た。
 中でも、エゾイチゲ・エゾキンバイ・オオバキスミレ。シラネアオイは素晴らしかった。
 やっぱり、天候のリスクを負わないと、イイ花は見られない。



エゾキンバイ



エゾイチゲ



雲峰山から芦別岳

上からガイド登山の方、5～6名降りて來た。

ガイドは、地元も方のようだ。肩からザイルを下げていた。 <http://www.nekoyanagiyama.com/>

現在は、便利な世の中で、一人＝5000一程度でガイドを引き受けてくれるようだ。

雲峰山を越えると芦別岳が迫って來た。

雪渓を抱えた立派な山だった。ここでも上からガイド登山のオバサマ方が降りて來た。

昨年の夕張岳の話をしたら、「明日雨でも、絶対に行く」と頼もしい宣言だった。

ガイドに花の名称を確認した。フレンドリーな方だった。

頂上に迫る。

下の雪渓は急だが大きなバケツ（踏み跡）があり問題なし。

上の雪渓は、やはり可なり急だが、脇の草付きを上った。

ここは積雪期は厳しい山と予想出来た。

岩場を越えて岩の頂上に立った。何も遮るもののが無い絶頂だった。

北・西面は、まだまだ雪が多かった。

本州なら、3000m級の山だろう。



下の雪渓

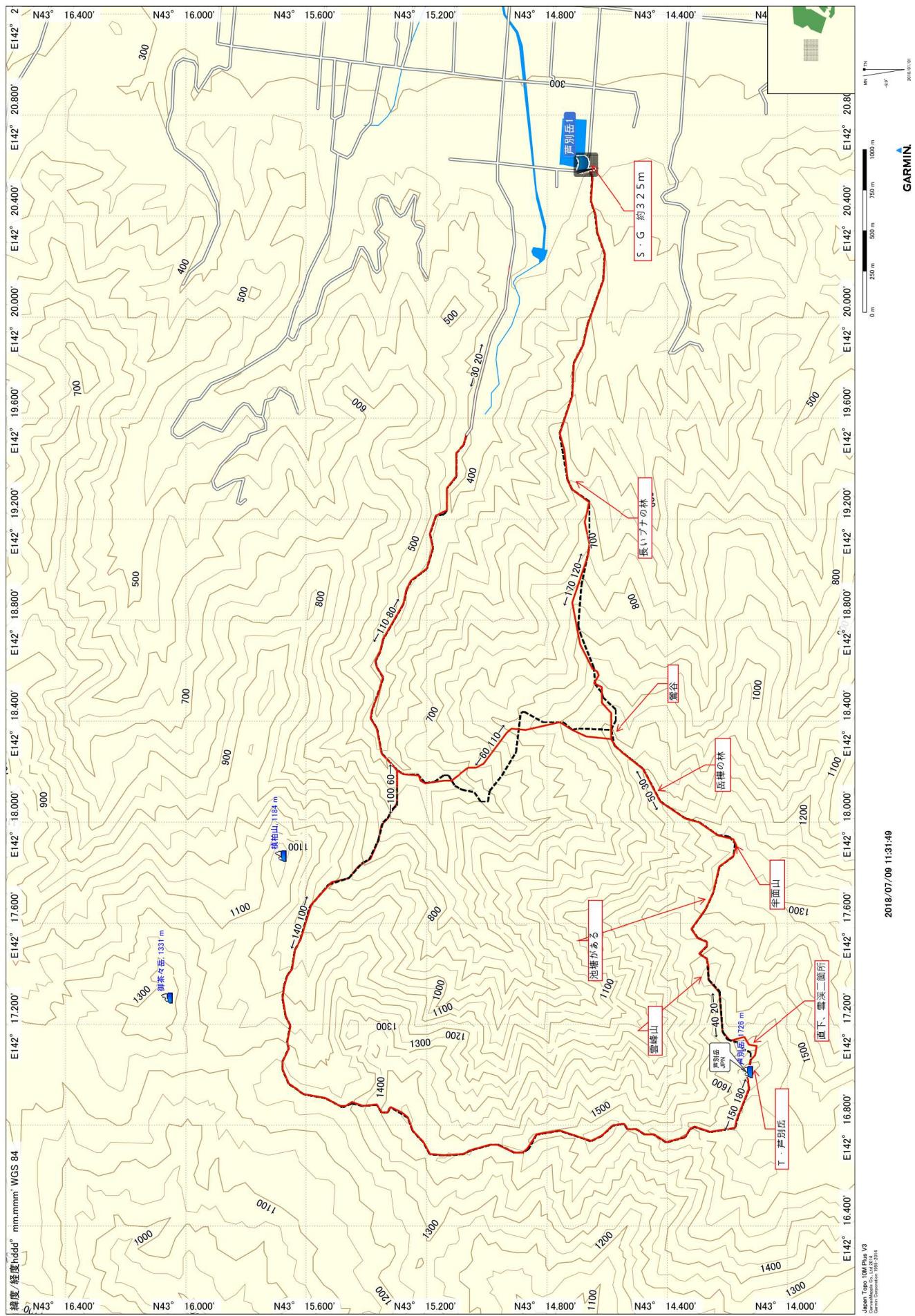


芦別岳頂上

コースタイムは5Hだったが、4H掛からなかった。風が強く寒いので即、下山。
盛岡の方が上って来た。聞けば、私より若かった。
雲峰山で昼食。何故かビアを忘れた。

下りも花を楽しんで行く。
反面山辺りで、また雨がパラパラして来た。台風も来ているので、
明日からも、好天は望めそうもない。
鶯谷から更に下ると、先ほどのオバサマ方がまだいた。
商売とはいえ、ガイドも大変である。

貯水池に降りて、公園で装備を洗った。
明日からの行動を考えた。好天が来れば、幌尻に戻りたかったが、増え悪くなるだろう。
今回は幌尻は諦め、本州に向かうことを決定。本州は少しほはイイだろう。
その為に大洗のフェリーはキャンセルし、代わりに青函フェリーを予約する必要がある。
ただ、本州に渡る前、少し気になる山も上りたかった。
何処にするか？？気になる山は、道南の北海道（大沼）・駒ヶ岳（1131m）。
ここは、見事に秀麗な山だった。



山行 N0 NO. 1802-4 文・KN 写真・TG
 日 時 2018. 07. 03 (火) 曇りのち雨
 山 域 渡島半島 (大沼) 駒ヶ岳 (1131m)
 コース 赤井川登山口 9:20—昭和4年大噴火口 10:27—頂上溶岩ドーム・最高到達点 1060m—昼食—登山口 14:30—青函連絡船—青森
 標高差 上り 赤井川登山口約485m～溶岩ドーム最高到達点約1060m=約575m
 下り "

地球の子宮が露わに見えた！

今日は渡島半島にある狩場山への移動日だ。道央にある芦別岳から高速に乗ったが、相変わらず雨はポチポチとウィンドガラスを叩きつけていた。
 車中では、明日も雨なら山は断念して函館から青函連絡船に乗って青森から南下して帰ろうと話が決まった。が、走るにつれ雨足が遠のき時折高い山が見え隠れし始めた。
 大沼公園という標識を見ると、「此処にはいい山があるんだ。雨もないしイッショ登るか～」
 と、C.L.の一言で渡島 (大沼) 駒ヶ岳に登る事になった。

高速をおり、カラマツが目立つ分譲地をひたすら走り、森林限界を超えた火山灰剥き出しの裸地に車を止める。薄曇り。頂上は全くのガスに包まれていた。駐車場にはやはり今着いたばかりの車が2台。登る準備を始めていた。「さあ！雨が降らないうちに登ってしまおう！」右手首を痛めた私は、何事にも段取りが遅く、支度もそこそこに歩き始めた。富士山のガレ場に似た登山道は、火山特有の軽石の多い赤茶けたザラザラ道で滑って登りにくい。又、直線的に上に続く登山道も珍しい。ストックが上手く使えない私は直ぐに遅れ始めた。「何をしている！遅いぞ！」とC.L。「そう言われてもなあ。手首が痛いもんでねえ・・・」心の中でぼやきながらも歯を食いしばって登る。景色など何も眼中に入ってこない。何時もはかかない汗が額からポタリポタリと滴り落ちる。



赤井川登山口

9合目の標識に「ええー！何ぼも歩いてないのにもう9合目？～」これで救われた。ホッとして後ろを振り返ると、大沼湖から緑豊かな森林、町並みが際限なく雄大に広がっていた。深くえぐれた登山道をガスに包まれた山頂を目指して暫く登ると馬の背筋。「山頂は△の標識」があり、一般者はご遠慮下さいとある。此処は頂上ではないのか。周辺は草原のような感じで水平に遠望が広がっていた。△岩につけられた矢印に従って火口原の方向に進む。段々と上のガスが切れ左手に円山が見えた。道の両脇には、イチヤクソウの群落、ゆるゆると歩いていくと、突然目の前に切れ落ちた火口の亀裂が

飛び込んできた。地球の息吹を感じさせる素晴らしい圧倒的なド迫力で！暫し感無量！！！
風が強く、身体が煽られて長くは居られない。ガスで隠れて見えない頂上は何処だ！火口脇から伸びて
いる山は砂原岳？手前に猛々しい山がガスの中にチラッと見えるけれどその山？



昭和4年の噴火口

今回、此処へ来るはずもなかった山なので手元には何も資料がない。登山道を外れてそれらしき山を目指して進む。誰も踏み込まないのか土がふかふかして足のバランスが悪い。地割れがいく筋も走り奈落の底が口を開けていた。覗き込んでみたが底が見えず背中に寒気が走る。おおーこわ！



大クレバス

取り敢えず馬の背の登山道に戻り、新たに丸山の先にチラッと見えた岩峰が剣ヶ峰とあたりをつけ目指す事にした。道は踏み後程度。ザレ場には透き通るような絨毛に包まれたイワブクロがビッシリ！そこかしこに芽を出し、歩かれていらない道だと示していた。登山禁止とは表示されていないが、一般者はご遠慮下さいが功を奏しているのか。丸山を過ぎ更に上を目指す。勾配がきつくなり道もなくなつた。これから先は岩稜だ。ルートは多分あるだろうが、私たちも此処で終りにする。
ガスの切れた下界の風景を楽しみながら下り、馬の背で休憩していると雨足がやってきた。本降りの前に車に戻ろうと、すっとん飛びで駐車場まで。今日も昼から雨にあたってしまった。
予定外の山だったが、なかなか良い山で大満足でした。



(ネットから)



イワブクロ



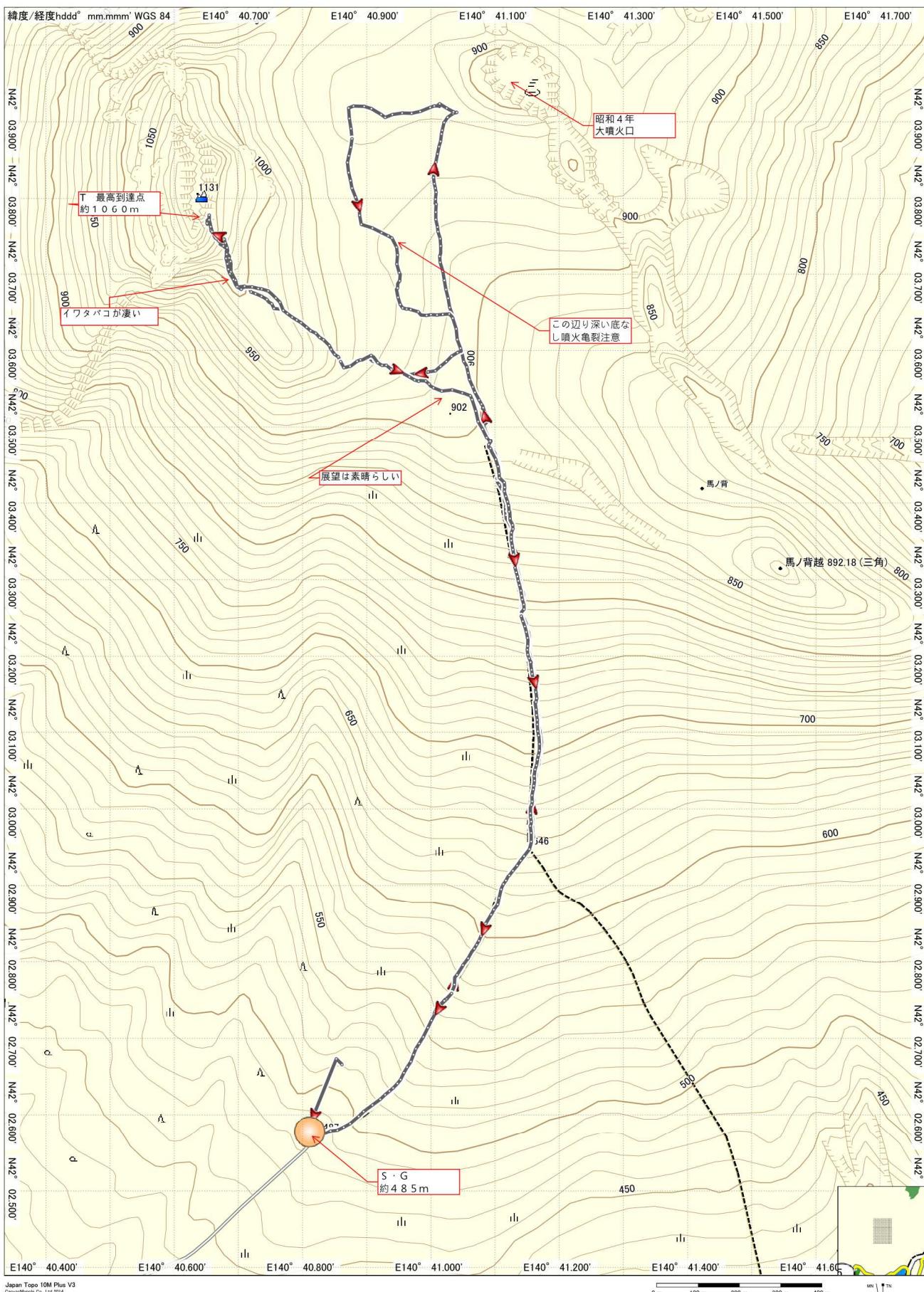
コケイラン (?)



(ネットから)



(ネットから、頂上岩峰は登頂無理か)



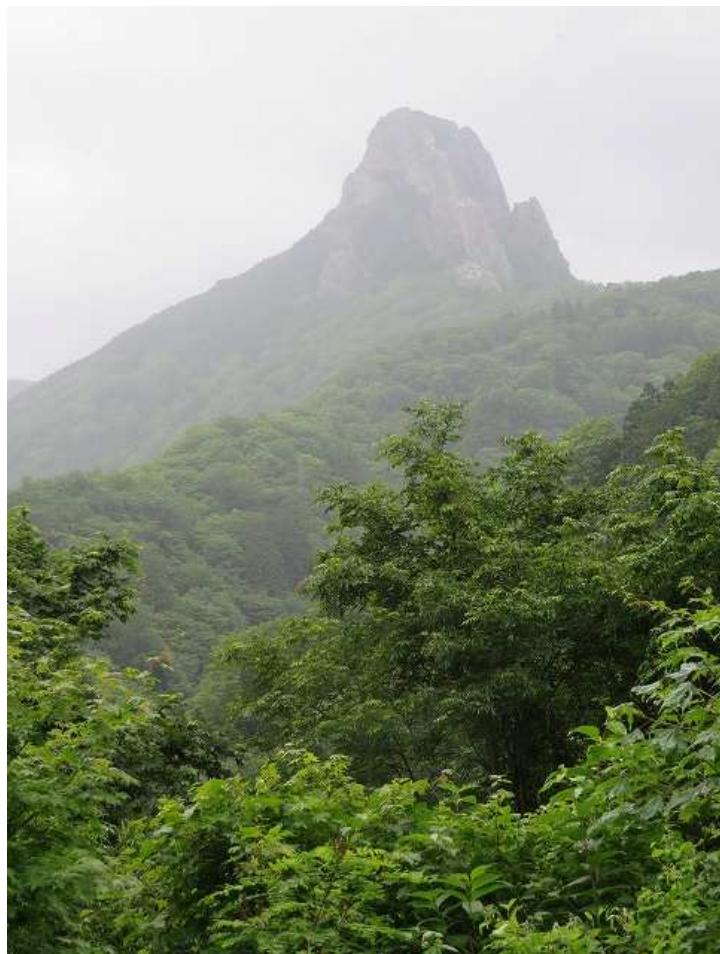
マイクロクション

GARMIN

山行 N0 NO. 1802-5 文・写真 TG
日 時 2018. 07. 04 (水) 曇りのち雨
山 域 下北半島・縫道石山 (ぬいどういしやま・626m)
コース 恐山—大間—仏ヶ浦—海峡ライン分岐—登山口—青森
標高差 上り なし
下り

下北の怪峰を訪ねる

恐山に寄る、大間でマグロを食べ、遠路、下北半島の西端、縫道石山を訪ねたが、登山口でまたまた雨。雨はいささか、ウンザリ・ガッカリでやる気は失せ、青森の友人宅に向かった。



大石沢付近から縫道石山



大間のマグロ

山行 N0 NO. 1802-6 文・写真 TG
 日 時 2018. 07. 06 (金) 曇・モーレツな風
 山 域 北上山地・五葉山 (1351m) 黒岩コース
 コース 桧山登山口—林道—大沢コース合流—黒岩—五葉山神社—五葉山—五葉山神社—あすなろ山
 莊分岐—あすなろ山莊—林道—登山口
 標高差 上り 桧山登山口約725m～五葉山1351m=約626m (ただし長い)
 下り "

シャクナゲの海・海・海・海に感嘆

青森から好天を求め更に南下。

しかし天気は相変わらずハッキリしない。早池峰の案もあったが、結局、未踏の山を選ぶ。

五葉山は気になっていた。特に今流にいえば、「シャクナゲ、半端ない」山だった。

桧山林道を上り登山口着。

林道を上らない下からの黒岩コースもあるが、標高差が1000mと大きく時間は掛かる。



登山口

駐車場から右は黒岩コース、左はあすなろ山莊コース。あすなろコースは2H30で上れるので、やや長いが黒岩コースを選択。

荒れた林道を進む。小一時間で林道を離れ、山道に入る。

このコースは、歩かれていらないらしく荒れていた。

周りは、ヒノキアスナロで覆われていた。この樹は、ヒバとも呼ばれるが、関東以北から渡島半島に多く分布するという。

静岡のヒノキに比べ、葉が大きく太くガッシリしている。



大船渡方面

ひと踏ん張りで稜線に出た。ひざ下の笹が一面広がっている。かろうじて登山道が分かる程度。下刈りをしないと数年後に登山道は埋没しそうだった。
グングン上って行くと、右から大沢コースが合流した。
ハクサンシャクナゲが出て来た。満開で今が見ごろだった。
樹林帯を抜けたのでモーレツな風が吹く。幸い雨は降っていない。
この風は、台風崩れの前線の影響だろうか。最も、後で分かったことだが、広大な頂上一帯は大きな樹木が全くなかった。冬はもとより、一年中、西・北風が強いのではないか。

花崗岩の巨石帯を上る。左からモーレツな風が吹く。ややもすると吹っ飛ばされそうだった。
小ピークに達した。期待の黒岩かと思ったが違って、ガッカリしてしまった。
兎に角、この強風から早く逃れたかった。
ぶっつけ本番で來たので、資料が少なく、頂上から駐車場に戻れるか、一抹の不安があった。
仮に登山コースを、また下ることになったら、エライことになる。
やっと黒岩着。やれやれだった。



黒岩上り

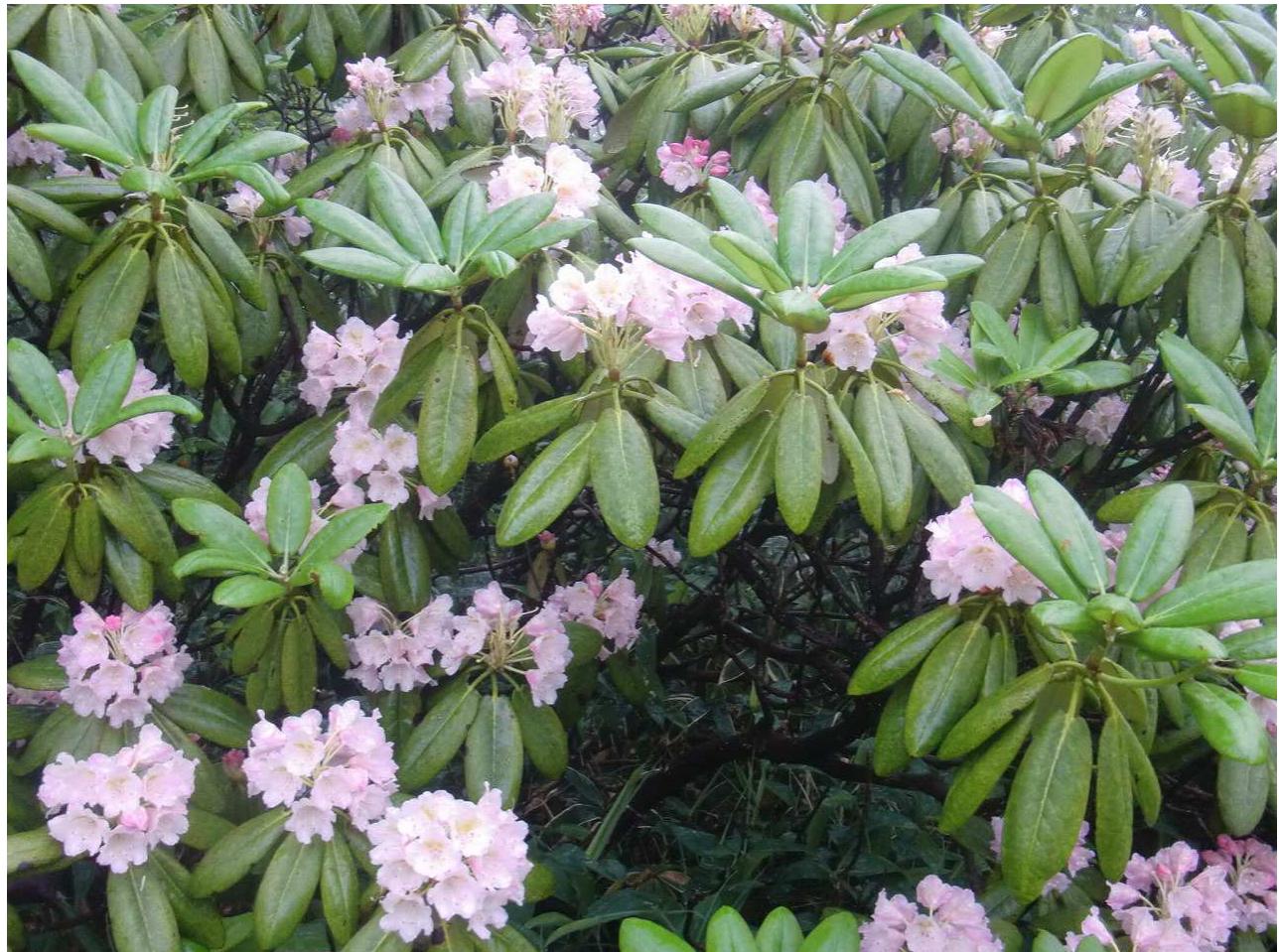
相変わらずモーレツな風。霧の向こうに鳥居が見えた。しかし、頂上ではなかった。
五葉山神社だった。大きな石造り立派な社だった。
少し下って頂上に向かう。この辺りは、正にシャクナゲの海・海・海・海だった。
シャクナゲは、天城の様にヒヨロヒヨロした高木でなく、大きな盆栽風なシャクナゲだった。
恐らく、前述した年中の強風で、矮小化しているのだろう。
しかし、その光景は半端でなかった。こんなシャクナゲがこの世にあったのかと絶句した。

遮るものがない、頂上一帯の平原は、更にモーレツな風。まともに進めない程だった。
高い樹木もシャクナゲが無かった。
ようやく頂上に辿り着いた。長かった。晴天ならそんな感じはなかっただろうが、悪天候が
そうさせたのだろう。
標識にタッチしてすぐ下山。五葉山神社から桧山に下るルートがあつて良かった。
急下降でバンバン下る。
神社の標識があったが、分からなかった。下り切ると駐車場からの林道の終点で、
「あすなろ山荘」があった。大きく綺麗で中央に薪ストーブがあった。入り口には
薪が山積みされていた。冬はさぞかし楽しそうな感じだった。

林道を下ると駐車場着。長居は無用ですぐ下る。下って、もう1峰の考えもあったが、天気は相変わらずハッキリしない。おとなしく帰静する。ま、いろいろあったが、全体的には満足しうる山行だった。



シャクナゲの海





頂上標識



あすなろ山荘

